

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0006
 住 所 川崎市川崎区砂子1丁目8番地1 川崎室町ビル
 氏 名 出光ルプテクノ株式会社
 代表取締役社長 鈴木 忠

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第10条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	出光ルプテクノ株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区水江町6番2号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	17	石油製品・石炭製品製造業
主たる事業 の内容	潤滑油の貯蔵、製造、出荷		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	1,870	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		l-CO ₂

(第2面)

計画期間及び報告年度	平成28年度 ～ 平成30年度 (報告年度 平成30年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況(第1号、第2号、第4号該当者等)

(1) 温室効果ガスの排出の量の状況(排出係数固定)

ア 計画期間の温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
排出量	(実) 3,516 (調) 4,749 t-CO ₂	(実) 3,641 (調) 4,900 t-CO ₂	(実) 3,773 (調) 5,059 t-CO ₂	(実) 3,810 (調) 5,100 t-CO ₂	(実) 3,672 t-CO ₂
削減率		(実) -3.6 (調) -3.2 %	(実) -7.3 (調) -6.5 %	(実) -8.4 (調) -7.4 %	(実) -4.4 %

イ 計画期間の温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値

原単位の 活動量	製造数量		単位	t-CO ₂ /千kl	
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標年度の値
排出量 原単位等の値	23.37	22.92	21.71	21.18	22.67
削減率		1.9 %	7.1 %	9.4 %	3.0 %

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況についての説明

第1年度	当該年度の製造数量が基準年度比+4.8%となったことが要因となりエネルギー全体の使用量が増加した。ただし灯油削減のためスチーム供給先を選定する運用を変更したり、コンプレッサーの運転時間短縮等の活動により原単位を1.9%減少させることが出来た。2016年10月から管理部署の一部が分離しテナントビルに転居したため全体の電気使用量は今後増加する見込みである。
第2年度	当該年度より、本格的にテナントビルに転居した、管理事務を行う本社分のデータを取り込んだ事によって増加している。更には報告年度より今まで行っていなかった月1回の土曜日製造を開始したため、排出量は自ずと増加する結果となった。ただし、製造付帯設備等のアイドルングストップを奨励した結果、原単位の削減に繋げることができた。
第3年度	今年度も引き続き製造数量の増量(基準年度対比19.5%)となった結果、排出量の増量となった。しかしエネルギー使用の実情は同一油種多量の受注に伴い、屋外の大型ブレンドタンクでの製造が如実に上昇した。但し屋外のタンクは、調査に使用する添加剤の投入にはローリー車ポンプ等を使用する為、所内の特に電力への使用抑制に貢献していることが、原単位の削減につながっている。本計画期間内を総括して、毎年の製造数量増加したため、排出量増加につながったと捉えている。その為、原単位の削減に注力を尽くし、削減率については目標値と比べて一定の結果を残せたことは、社内の委員会等の活用でブレインとなって方向性を固める事が要因であったと認識している。

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況(全社目標)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成するための措置の実施状況

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の実施状況

事業所等 (第1号、第2号、第4号該当者等)	計 画	①外部機関の利用 ②熱利用設備に係る断熱の保安全管理 ③スチームトラップの保安全管理 ④エアコン更新(新設、更新等における措置) ⑤ロスナイ導入(新設、更新等における措置) ⑥コンプレッサーの保安全管理 ⑦配管電気加熱設備の運用管理(電動応用設備の無負荷管理) ⑧照明器具の運用管理(新設、更新等における措置)
	第1年度	②熱利用に係る断熱の保安全管理 保温タンク(51KL×3基)の保温材を更新した。 ④エアコン更新(新設、更新等における措置) エアコン入替(6系統)の際、高効率機器を選定した。 ⑧照明器具の運用管理(新設、更新等における措置) 照明器具の更新を実施した際、LED灯具を採用した。 ○(その他)蒸気供給の管理 夏季における限定負荷運用の期間を延長した。 製造におけるタンク加温時において、許容下限値を目指した運転の実施
	第2年度	③スチームトラップの保安全管理 閉塞・漏れが確認されたスチームトラップの更新を行い、24.9kg/h(原油換算3.8kl)の損失防止を図った。 ⑧照明器具の運用管理 引き続き計画的に照明更新を実施し、LED灯具の採用した。 ○(その他)エネルギー使用状況のデータ活用 データを活用し、フォークリフト通行ルートを模索し、燃料を削減した。
	第3年度	③スチームトラップの保安全管理 既存のトラップ更新を11台実施し、その効果は全体で40kg/h達成した。 ⑧照明器具の運用管理 外灯(400W水銀灯)×11台を同仕様のLED灯具へ更新した。 ⑤ロスナイの導入 本館執務エリアにおいて、11台(47~170W)新設した。
自動車等 (第3号該当者等)	計 画	
	第1年度	
	第2年度	
	第3年度	

4 その他の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

計 画	<ul style="list-style-type: none">・廃棄物の分別、再利用化率を向上させる取り組みを実施する。・社内で使用する用紙を削減する取り組みを実施する。
第1年度	<ul style="list-style-type: none">・廃棄物の分別・再利用に取り組み、再資源化率90%以上を達成した。・コピー用紙の削減に取り組み、A4換算で12,500枚の減少を行った。
第2年度	<ul style="list-style-type: none">・廃棄物の分別・再利用に取り組み、再資源化率93.5%を達成した。・コピー用紙の削減に取り組み、A4換算で20,000枚の減少を達成した。
第3年度	<ul style="list-style-type: none">・廃棄物の分別・再利用に取り組み、再資源化率93.4%を達成した。・コピー用紙の削減に取り組み、A4換算で97,500枚（基準年度対比）の減少を達成した。

6 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績（排出係数反映）

(1) 事業者単位

ア 第1号、第2号、第4号該当者等

(実)	4,000	t-CO ₂
(調)	4,777	

イ 第3号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位（第1号、第2号該当者等）

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が1,500kl以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
出光興産(株) 京浜ルプセンター	川崎市川崎区水江町6番2号	1721	潤滑油製造業	3,942 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl以上1,500kl未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で500kl未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400～500kl 未満	
300～400kl 未満	
200～300kl 未満	
100～200kl 未満	
100kl 未満	1

(3) 事業所等単位（第4号該当者等）

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t以上（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量（二酸化炭素換算）が3,000t未満（二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。）の事業所の数

事業所数	
------	--